

環境経営レポート 2023

2022年10月 ~ 2023年9月
作成日：2023年12月 21 日

登録番号：0008633

登録日：2012年8月27日



創業以来、プラスチック部品製造に携わってきた弊社は、「暮らしやすい環境の実現」をモットーに、軽量、高断熱といったプラスチックの特性をいかし、低環境負荷の製品及び生産体制の実現を目指しております。

株式会社 小林製作所



環境経営方針

〔基本理念〕

株式会社小林製作所はプラスチック製品の製造において「暮らしやすい環境の実現」をスローガンに、環境保全活動に取り組みます

〔基本方針〕

- 1 当社の事業活動の全ての領域で法規則を遵守し、環境保全に取り組みます
- 2 当社の事業活動に伴い、以下の重点的テーマを中心として、継続的な改善を行い、環境負荷の低減を図ります
 - (1) 電気使用量を削減し、温室効果ガスの排出削減など省エネルギー化をすすめる
 - (2) 水と紙の使用量を削減し、資源の有効活用をすすめます
 - (3) 不良率を低減し、産業廃棄物の排出を減らします
- 3 全社員にこの環境方針を教育徹底し、全社員が環境保全活動への貢献ができるよう目指します
- 4 外部からの求めに対し、当社の環境方針は開示いたします

制定日 2011年8月23日
株式会社小林製作所
取締役社長

小林 秀晴

事業の概要

事業所及び代表者名

株式会社小林製作所

取締役社長 小林 秀晴

所在地

〒370-1211 群馬県高崎市阿久津町1238

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 取締役社長 小林 秀晴

環境管理責任者 : 取締役社長 小林 秀晴

担当 : EA21事務局 寺嶋 資典

TEL : 027-346-5252

FAX : 027-346-5234

URL : <http://kobayashiss.jp>

対象範囲

株式会社小林製作所 全組織、全活動

事業の内容

プラスチック部品製造（射出成形）

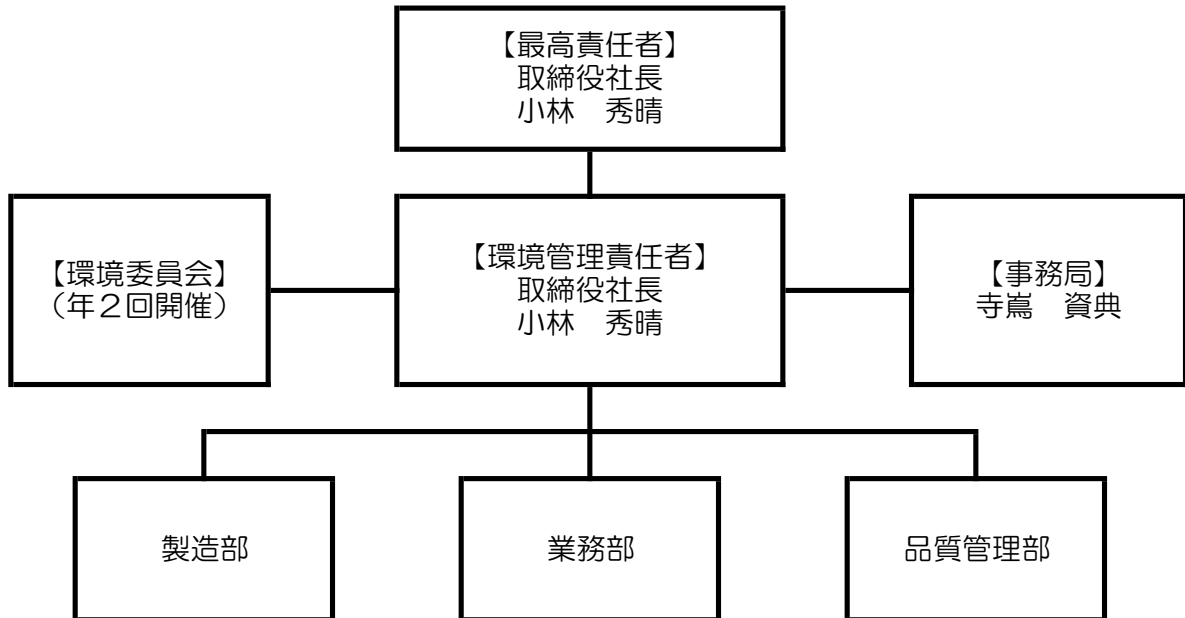
設立 昭和23年11月

資本金 30,000千円

敷地面積 5,256㎡



EA21推進体制



職名	役割
最高責任者	<p>【取締役社長 小林 秀晴】</p> <p>①、環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼務で責任と権限を明示する。</p> <p>②、エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・機能を含む）を準備する。</p> <p>③、環境方針を制定する。</p> <p>④、エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。</p>
環境管理責任者	<p>【取締役社長 小林 秀晴】</p> <p>①、エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。</p> <p>②、エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。</p>
事務局	<p>【寺嶋 資典】</p> <p>事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。</p>
環境委員会	<p>最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、月1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。</p>

環境経営目標と実績

当社に於ける2019年度を基準年として、2022年度～2024年度の目標を下記のとおり定めました。

環境目標	基準値	今年度目標		中長期目標		環境活動計画 実施事項
	19年度	22年度		23年度	24年度	
	実績	目標	実績	目標	目標	
①売上高100万円当たりの二酸化炭素排出量の削減(kg/百万円)	348	2019年度実績に対して4%削減	◎ 308.6 (-12.7%)	2019年度実績に対して5%削減	2019年度実績に対して6%削減	①成形機ヒーター類の節電推進 ②空調温度適正化・表示 ③照明不要時のOFFの推進 ④エアコン清掃の実施 ⑤エコドライブ推進 ⑥電力、ガソリン量の集計
②従業員一人当たりの水資源投入量の削減(m ³ /人)	15.7	2019年度実績に対して維持	× 52.1 (+331.8%)	2019年度実績に対して維持	2019年度実績に対して維持	①毎月のメータの確認(漏水防止)
③売上高100万円当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万円)	29.5	2019年度実績に対して5%削減	◎ 15.9 (-46.1%)	2019年度実績に対して6%削減	2019年度実績に対して7%削減	①不良品の減少 ②廃棄物の粉砕機による粒状化
④化学物質取扱及び管理の徹底	取扱量の把握	管理の徹底	取扱量の把握	管理の徹底	管理の徹底	①取扱商品の把握 ②購入量の把握 ③取扱商品一覧表の作成(更新)
⑤本業に関する目標 売上高100万円当たりの使用材料(kg/百万円)	341	2019年度実績に対して3%削減	◎ 288.1 (-15.5%)	2019年度実績に対して3%削減	2019年度実績に対して3%削減	①不良品の減少

*購入電力の排出係数は、下記の当該電気事業者の調整後排出係数を使用しています。

0.429 (電気事業者：東京電力パワーグリッド(株))

*2022年度の実績は、2022年10月～2023年9月の1年間のデータです。

2. 主な環境負荷実績

環境への負荷	2020年度	2021年度	2022年度
①二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	185,341	201,182	192,276
②廃棄物排出量(kg)	11,300	11,340	9,930
③水資源投入量 (m ³)	615	620	1,981

※排出係数は2019年度以降「0.429」で統一しています。

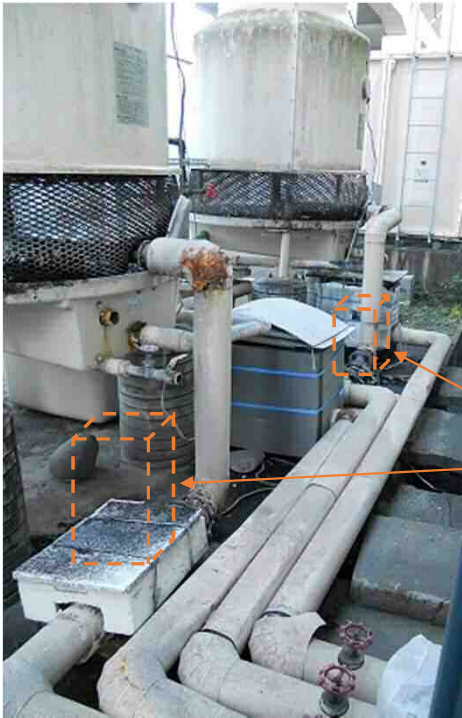
環境経営計画の取組みと評価

*2022年度（2022年10月～2023年9月）の1年間の活動の取組みと評価をしております。

活動計画・達成状況	環境経営計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 2019年度に対し、4%削減 目標の達成状況：12.7%減◎	削減率12.7%は、前年度の0.7%削減から大幅に削減した 売上高が前年度を5.7%増加に対し、CO2排出量は 4.4%減少した 節電意識の向上が要因か
	次年度への取組内容
	エアコン稼働でのこの実績を、引き続き維持する
2. 水資源投入量の削減 『目標』 2019年度に対し、維持 目標の達成状況：331.8%増×	増加率331.8%は、大規模漏水(22.10月～、23.1月に発見、 通常の約7倍、～4月調査、工事)による 異常データのため正確な評価できず
	次年度への取組内容
	今回の漏水発生から、今後は2ヶ月毎の使用量を把握し 異常の未然防止を図る
3. 廃棄物排出量の削減 『目標』 2019年度に対し、5%削減 目標の達成状況：46.1%減◎	削減率46.1%は、前年度の34.8%を更に更新した 売上高が前年度を5.7%増加に対し、廃棄物排出量は 12.4%減少した 不良削減意識の向上が要因か
	次年度への取組内容
	2年前から行っている「不良を出さない仕組みづくり」を 継続する
4. 化学物質取扱及び管理の徹底 『目標』 取扱量の把握 目標の達成状況：◎	プラスチック製品を取り扱っており、顧客からも 化学物質に関する資料等の要求は多い 社内の危険物の管理も適正である
	次年度への取組内容
	顧客からの化学物質の問い合わせや依頼も、年々、 レベルが上がっている。今後とも対応していく
5. 使用材料の削減 『目標』 2019年度に対し、3%削減 目標の達成状況：15.5%減◎	前年度8.8%増から、15.5%減に転じ 数値も目標3%を大きく上回った 売上高が前年度を5.7%増加に対し、使用材料量は 17.9%減少した 不良削減意識の向上が要因か
	次年度への取組内容
	引き続き、使用材料大（製品重量×生産数）品に着目する

環境活動報告-1/3

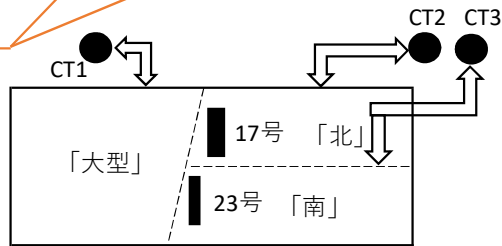
- 22.11.24
工場クーリングタワーポンプ削減に伴う電源スイッチ整理（削除）工事



ポンプ削減



スイッチ削除



環境活動報告-2/3

- 22.11.24~25
洗面所及びトイレ照明スイッチの人感式交換工事

人感センサー



女子トイレ



男子トイレ

照明スイッチ
(女子トイレ)

照明スイッチ
(男子トイレ)

照明スイッチ
(洗面所)



洗面所

- 22.12.3~4
工場コンプレッサー新規入替工事
主機+補助機運転（従来）を2台による交互運転（新規）に変更

主機

補助機



（従来）

偶数月運転

奇数月運転



（新規）

環境関連法規制の遵守

法規制等の名称	遵守状況
騒音規制法	遵法
振動規制法	遵法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	遵法
自動車リサイクル法	遵法
消防法	遵法
フロン排出抑制法	遵法

今年度の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

代表者による全体の見直し

昨年度からほぼ全般的なコストの上昇基調が明らかとなり、それが引き続いた1年でした。結果、会社の業績としては、売上は過去最高売上を記録したものの減益ということになりました。また今年、弊社で目立ったものでは大規模な漏水がありました。結局、根本的な原因の判明には至らず水道管をバイパスすることで解決させてしまいましたが、当工場でもインフラの老朽化が懸念される事態ではあります。屋根の修繕やコンプレッサーの入替え等を今年度も行いました。労働環境の改善も含めて、継続していかねばなりません。しかし、これもお金のかかる話にはなっていきます。不良を作らず、節約したコストはこうしたところに還元できます。EA21の活動を通じた今後の一層の努力も必要になっていきます。

取締役社長 小林 秀晴